



Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

日本内科学会雑誌 (2006.02) 95巻Suppl.:199.

閉塞型睡眠時無呼吸症候群に合併する高血圧に対する経鼻持続陽圧呼吸療法の効果と問題点

長内忍, 中尾祥子, 高橋政明, 高橋啓, 大崎能伸, 菊池健次郎

閉塞型睡眠時無呼吸症候群に合併する高血圧に対する経鼻持続陽圧呼吸療法の効果と問題点

旭川医科大学 第一内科 ○長内 忍, 中尾祥子,
高橋政明, 高橋 啓, 大崎能伸, 菊池健次郎

閉塞型睡眠時無呼吸症候群 (OSA) に合併する高血圧 (HT) が経鼻持続陽圧呼吸療法 (nCPAP) によって改善することはよく知られているが, 治療効果が不十分な症例も存在する. 本研究では nCPAP の効果の差異について臨床的に検討した.

対象は当科で nCPAP を導入した HT 合併 OSA 62 名 (男性 59 名, 女性 3 名). 導入後 3 ヶ月で血圧の下降が 10mmHg 以上を R 群, 10mmHg 未満を N 群に分けた. これらの群で nCPAP 装置のメモリーカードに記録された治療状況と治療前後の血中接着因子を測定し比較検討した.

本研究期間中に血圧コントロールが不良等の理由で 16 例が降圧剤の変更を行ったため対象から除外したところ, R 群は 32 名 (女性 2 名), N 群 14 名 (女性 1 名) であった. 治療前の肥満度, メタボリックシンドロームの合併頻度, 睡眠呼吸障害諸指標および血中接着因子濃度は群間に差はなかった. 治療状況は装着日数, 平均装着時間は R 群でやや高い傾向が認められたが有意な差はなかった. しかし, 一晩当りの中断回数は N 群で有意に多かった. また, 治療後の血中接着因子濃度は R 群で低い傾向を認めた.

nCPAP による HT に対する効果については, 予測因子となりうる項目は見いだされなかったが, 頻回に nCPAP を中断する群では効果が低く, 導入後の管理も重要な因子であると考えられた.